

実務経験のある教員等による授業科目

# シラバス

音楽技術学科

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	
担当講師(プロフィール)		
岡本 真由子 長年にわたる就職指導経験と業界企業との連携を活かし、音楽・エンターテインメント業界での活躍を目指す学生の指導を行う。		

前期
到達目標
音楽業界の知識・ビジネスの仕組みを知る

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	学内生活説明① 施設設備について 学内にあるいろいろな専攻が使用する施設・設備の見学を行い「音楽」に携わる仕事が理解できるように説明していきます。
2	学内生活説明② 音楽技術学科のカリキュラムについて 制作・マネージメント関連の授業内容や担当される講師方々の紹介を行い、年間で予定されている行事やイベント等も説明していきます。
3	学内生活説明③ 他専攻について 音楽業界の一部をシミュレートしたかたちの学校を紹介し、その内容を支えている意味で技術・演奏・総合・楽器(ダンス)があります。
4	学内生活説明④ PC類について デジタル化が急激に進む中、技術系は、とても進歩しています。その入口となるキーボード操作、その意味を理解してください。PCへの意思付けを重要としています。音楽パッケージのかたちも理解しましょう。
5	音楽ジャンル① ロック・ポップス全般 ここでは、一般的な洋楽ロック・ポップスを取り上げます。やはり流行も大切ですが、歴史上必要な音楽も沢山あります。担任チョイスの一例を取り上げます。(VTR視聴)
6	音楽ジャンル② J-POP、歌謡曲 日本で就職することを考えると必要な分野だと感じます。大枠としての内容を理解していきます。(VTR視聴)
7	音楽ジャンル③ その他の分野 R&B、ブルース、ジャズ、ゴスペル、ソウル、ファンク、ラップ、サンバ、ボサノバ、ラテン、ワールドミュージック等を、その他の分野としました。(VTR視聴)
8	研修関連についての説明 企業研修についての取扱いや公欠処理のルールについて、また検定やメール・電話検定の実施についての説明を行う。
9	音楽業界について 第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版社、から成り立つ音楽業界の仕組みを少し学んでみましょう。
10	舞台芸術① 音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。屋内コンサート、野外コンサート、ライブハウス、イベント催事等
11	舞台芸術② 音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。宝塚大劇場、オーケストラ、歌舞伎、能舞台、オペラ等
12	ライブハウス・コンサート等音楽を主体とする大小の興業について 音楽を生で届ける方法として、ライブが一般的ですが、その方法も変化していきます。ここでは、ワンマン、チケット販売、グッズ、プロダクション、イベント等も交えて、音響関連企業に発注されるまでの流れを知ってください。
13	総復習 職業としての音楽技術学科は、ソフトの理解が必要です。ある程度のことを知っていれば、その現場終了後に、再度勉強すれば頑張れます。そのためにも、前期内容のおさらいをしましょう。
14	前期試験
15	FOLLOW 自分の得意な部分を知り、ハッキリさせた上で次の目標を考えたり、自分が進むべき方向感を持って後期に望みます。

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習
授業概要
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:

後期
到達目標
音楽業界のビジネスモデルを実際に運用する力を身につける

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	楽器について 身近なLM楽器。ギター、ベース、ドラム、キーボード(PIANO)の内容について学びます。イベント中、彼らが袖に来た時にチェックできる内容やプロとアマチュアでは、こちら出来る内容が変わります。
2	著作権① まずは、原盤制作に關係する著作権について学んでいきます。作詞・作曲、アーティストに対する印税等、まずは、音楽直接の権利です。
3	著作権② 音楽の世界だけでなく、大きな意味での「著作」を学んでいきます。演出・振付・図面・建築・キャラクター等も含めて知っておきたいものです。
4	聴覚 音が、空気中を伝わる仕組みとそれを受ける耳の構造(外耳～中耳～内耳)と働きを学びます。
5	一般教養[物理/科学] 世間一般的な内容を中心にテスト問題を解いていきます。成績に反映されるものではなく、あくまで就職試験を想定したものととして活用していきます。
6	一般教養[スポーツ/芸能]
7	一般教養[歴史/地理]
8	コンサートPA PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーシメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
9	レコーディング 一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人の出入りやスケジュール等色々な影響で作業手順も変わります。また、譜面の必要性も問われます。
10	映像関連 イベント会場では、もうお馴染みの映像関連。そのシステムを簡単に学んでみましょう。学校では、学園祭シーズンに配置されます。
11	放送業界① TV業界について、その仕組みと構造を知識として勉強していきます。沢山の制作会社やプロダクション等が仕事をの請け負いをしています。
12	放送業界② ラジオ業界についての仕組みも理解していきます。音楽が好きであれば、クルーが小さいため、制作とひとつのチームとして仕事ができる職業です。
13	総復習 関連業界の内容も含み、ちょっとした知識が沢山出てきました。就職に役立つ内容として理解してください。
14	後期試験
15	FOLLOW ある程度の研修をこなせる実力は、あるようになってきます。後は、現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしましょう。

授業科目		授業時数
音楽業界概論		60
学年	学科	
2	音楽技術学科	
担当講師(プロフィール)		
岡本 真由子 長年にわたる就職指導経験と業界企業との連携を活かし、音楽・エンターテインメント業界での活躍を目指す学生の指導を行う。		

前期
到達目標
音楽業界のみならず広く一般に通ずる社会常識を理解する

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1 年間スケジュール	2年生の年間スケジュールの説明、就職対策講座や会社説明会等の仕組みとその内容を改めて解説します。
2 検定試験	再度、検定試験等の受験を説明、2年間で色んなものを勉強して検定取得を目指します。
3 面談(就職活動相談)	個々に時間を取って、方向性・活動状況・家族の同意・自分自身が迷う事等をリサーチしていきます。
4 面談(就職活動相談)	
5 面談(就職活動相談)	
6 CD制作の仕組み①	CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解をしていきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。
7 CD制作の仕組み②	プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか？また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。
8 検定試験対策①	模擬試験等を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPUしていきます。
9 プロダクションにやイベント制作について	実際の現場では、まずイベント・コンサート(レコーディング)等の企画を起こして「実施を企てる」ところからスタートします。皆さんの現場は、その後に発注されるものでもあります。
10 舞台制作会社について	イベントホールやコンサートホールの管理についての仕組みを学びます。また、野外特設等で何も無いところからステージを製作していく会社の存在にも着目します。
11 照明会社について	照明会社のホール管理部門、イベント特設部門等の仕組みについて理解を深めます。
12 映像関連について	映像に関しては、TV局の撮影・収録・編集(送出)やイベント現場でのスクリーン設置、映像収録やライブ中継等、多岐にわたります。
13 総復習	個々の方向性をしっかり固めて、就職活動をしていきます。その為の補足的内容も付け加えて行きます。
14 前期試験	
15 FOLLOW	研修先等での行動をしっかり行い、自分が吸収した内容を見直し、後期に臨みます。

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習
授業概要
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:

後期
到達目標
最終教育機関として相応しい教育を身に着ける

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1 音楽配信の仕組み①	CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されていきます。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。
2 音楽配信の仕組み②	音楽配信のおかげで今まで、知ることができなかった、様々なミュージシャンたちの演奏も見ることが出来てしまいます。各国のアーティストが発信を続けて行く限りない世界に突入している現状です。
3 裏方に対するの表方[運営]について	ステージ上もしくは、ステージに関連する内容を行う裏方さんと、そのイベントやコンサートを観覧するお客様の案内・誘導を行う「表方」が存在します。みんなの仕事は、そのチケット代で成立しています。
4 学園祭準備①	音楽ビジネス専攻1、2年が協力して、学園祭制作内容を支えていきます。そのための配分や担当を考えて進めて行きます。実行委員会からの情報を共有します。
5 学園祭準備②	他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表している可能性があります。
6 学園祭準備③	現場を仕込む段取り、事前に作られたプランを参考にみんなで協力していく体制を作っていく、本番に臨みます。
7 面談(就職活動相談)	時期的には、最終の就職相談時期となります。再度、方向性・活動状況・家族の同意・悩む内容に対してキャリアスタッフと共に相談していきます。
8 面談(就職活動相談)	
9 オリジナリティ	自分にあると信じたい「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますが、自分の長所を見極めていけると嬉しく、自信にも繋がってきます。
10 プレゼンテーション1週目	2週に渡って、「自分の将来像」を自分なりにまとめ、自己分析も含め、自分の説明を考えてもらい、発表する場面を作っていきます。
11 プレゼンテーション2週目	
12 これからの音楽業界	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。
13 総復習	作業も含まれ、自分の周りの専攻だけではなく状況で作業をしていきます。就職に役立つ内容として理解してください。
14 前期試験	
15 FOLLOW	任される内容に対して答えが出来る実力を培ってもらえれば大丈夫です。現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
技術演習		120
学年	学科	
1	音楽技術学科	
担当講師(プロフィール)		
<p>白藤浩史 他 多岐にわたるイベント制作に長年携わる講師が、エンタテインメント業界、社会におけるイベントを多角的にとらえて学生に必要な知識指導する。</p>		

前期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代にいたる音楽、アーティストの歴史を学ぶことで、音楽業界の変遷を理解する</li> <li>・知的財産全般についての概要を理解する</li> <li>・著作権法について深く学び、エンタテインメント業界との関連性を理解する</li> </ul>

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	音楽史① 過去の音楽チャリティーのドキュメントDVDの鑑賞
2	音楽史② 前回鑑賞した映像に出ていた参加アーティストの研究① 前回鑑賞した映像についてその当時の時代背景やなぜそのようなことが行われたのかなどを研究していきます。
3	音楽史③ 前回鑑賞した映像に出ていた参加アーティストの研究② この回では、アーティストにスポットを当て、各アーティストの代表的な楽曲やルーツを研究していきます。
4	音楽史④ ルーツ研究① 現代の音楽のルーツとなる70年代から80年代にかけてのアーティスト、および楽曲について研究していきます。
5	音楽史⑤ ルーツ研究② 現代の音楽のルーツとなる80年代から90年代にかけてのアーティスト、および楽曲について研究していきます。
6	日本の音楽産業 日本の音楽産業に焦点を絞り、今日のJ-POPの発展までの音楽産業の歴史を学んでいきます。
7	知的財産① 特許法、意匠法、商標法、著作権法など知的財産に関する概要について学習します。
8	知的財産② 著作権① 著作権法の概要と著作物、著作者の関係性について学習を行います。
9	知的財産③ 著作権② 著作者人格権について学習を行います。
10	知的財産④ 著作権③ 著作(財産)権について学習を行います。
11	知的財産⑤ 著作権④ 著作権の発生と存続期間、制限される条件について学習を行います。
12	知的財産⑥ 著作権⑤ 著作隣接権について学習を行います。
13	知的財産⑦ 特許法、実用新案法の概要と申請要件等について学習を行います。
14	知的財産⑧ 意匠法、商標法の概要と申請要件等について学習を行います。
15	前期のまとめ

授業の方法	
講義	演習 実験・実技・実習
授業概要	
<p>著作権、特許、意匠、商標など知的財産についての基本的な知識について学習します。知的財産管理の職種における初級の技能者が通常有する技能、知識の習得を目指します。また、国家資格である「知的財産管理技能士3級」の取得を目標として、試験対策も行います。現在の音楽から遡ってそのルーツを学ぶ。さまざまな音楽ジャンル学ぶことにより著名な作品、アーティストを知る。 IllustratorやPhotoshopを使い、イベントフライヤーやDM、誌面、CDジャケットの制作基礎を実習を通じて習得します。 &lt;実務経験のある教員等による授業科目&gt;</p>	
使用教材:	

後期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産管理技能検定 3級の試験対策を行い、検定合格を目指す</li> <li>・PCを使ったデザインやレイアウトのノウハウを習得する</li> </ul>

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	知的財産⑨ 知的財産に関する国際条約等について学習を行います。
2	知的財産⑩ 種苗法やその他知的財産に関する法律について学習を行います。
3	知的財産⑪ 知的財産管理技能検定 3級の模擬試験を行います。
4	知的財産⑫ 前回の模擬試験の結果を振り返ります。
5	カードの作成① DTP 後期を通してIllustrator.Photoshopを用いて広告やメディアの制作を行う。そのための各スキルを身に付けていく。
6	カードの作成② DTP Photoshopで画像を切り取り、統合保存。Illustrator上でトリミングをしカードをデザインする。
7	カードの作成③ DTP 前回前々回で行っていたカードの作成を仕上げる。
8	フライヤー作成① Illustratorの移動パレットを使い、効率よくデザインする方法を学ぶ。 また、ダミー文字で組んだデザインにテキストを流し込む
9	フライヤー作成② 前回作成したものにPhotoshopで配色画像に着色していく。 Illustratorも使用し同時進行で仕上げていく
10	雑誌広告 テキスト原稿から文字起こし、使用する画像を自身で選び雑誌広告を作成していきます。
11	雑誌広告 前回に引き続いて雑誌広告を作成、仕上げまで持っていきます。
12	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインしていきます。
13	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインしていきます。 その際の注意点も合わせて説明していきます。
14	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインを仕上げていきます。
15	年間のまとめ

授業科目		授業時数
技術演習		120
学年	学科	
2	音楽技術学科	
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 他 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前期		
到達目標		
就職活動での基本的な教養		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。	
2	社外文書の書き方 履歴書等、企業へ書類を郵送する際のカバーレター(添え状)を決められた形式に沿って書けるようになる	
3	封書・はがき・ビジネスメールの書き方 企業へ郵便物やメールを送る際に、正しくルールに沿った書き方ができるようになる	
4	SPI・適性検査・筆記対策 本番で戸惑わないよう事前に演習を行う	
5	面接のマナー 面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える	
6	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める	
7	自己診断チェック 人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえてアピールするかを学ぶ。	
8	企業診断・学生診断チェック 会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。	
9	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意 一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控え室などでの注意事項を学ぶ。	
10	名刺交換 名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。	
11	敬語の基本 ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。また、二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。	
12	敬語の応用 お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を出し合い深める。	
13	電話応対 電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。	
14	前期試験	
15	電話応対応用 不在時に行き届いた臨機応変なメモの作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。	

授業の方法	
講義(演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界人として相応しい技術を様々な演習により学んでいきます。知識、文章作成能力、パソコン操作など多角的に学ぶことにより企画書、提案書類の作成など制作者としてのスキルを身に着けます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
社会人としての基本的な教養	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	就職活動振り返り これまでの活動を振り返り、良かったところ足りなかったところを分析し、今後に活かして結果につなげる
2	グループ面接模擬 グループ面接時での立ち振る舞いを確認し、質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け深める
3	模擬面接フォローアップ① 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める
4	模擬面接フォローアップ② 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を出し合い深める
5	指示・命令の受け方 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表している可能性があります。
6	報告の仕方 ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
7	コミュニケーション(エゴグラム・傾聴スキル) 公私共に他者と良い信頼関係を築くために自己の対人傾向を掴み、傾聴スキルを習得する
8	コミュニケーション(アサーション) ビジネスでもプライベートでも自己と他者ともに尊重した意見の主張の仕方を習得する
9	来客応対・訪問のマナー 自社に来たお客様を親切・正確・迅速・丁寧にお迎えし、また他社を訪問した際にもマナーに沿った振る舞いができるようになる
10	ビジネスでの茶菓のマナー 自社に来たお客様をもてなし、ホスピタリティが伝わるお茶の出し方、他社を訪問した際のいただき方を学ぶ
11	是非知っておきたいテーブルマナー ビジネスで人と会食を共にすることは人間関係を築く上でも重要である。周囲を不快にさせない会食のマナーを身に付ける
12	ビジネスでの贈答の心得 慶事や弔事のマナーを知り、将来仕事でも発生する場合に備え贈答の種類や贈る期間、熨斗や金封紙それぞれの使い分けを学ぶ
13	学生と社会人の違い 顧客意識・コスト意識等、社会人としての心構えを持ち、スムーズな社会生活のスタートを切るためグループで話し合いまとめて発表する
14	後期試験
15	後期試験返却と解説 立食パーティーのマナー 会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。